

ICNP(R) 解説

日本看護協会・政策企画室／日本看護協会看護実践国際分類研究プロジェクト

上鶴 重美 ● Kamitsuru Shigemi

電子カルテシステムの導入が進む中、看護用語集の必要性がこれまで以上に高まっている。しかし残念ながら、日本で独自に開発され全国的に標準化されている看護用語集はまだない。だからと言って一朝一夕に用語集が完成できるものでもなく、用語集開発に関心を持つ研究者の育成と継続的取り組み、看護界全体からの理解と協力が不可欠である。看護用語の体系化は、看護を社会の中でアピールしてゆくために不可欠な基盤整備である。世界的規模で看護用語を体系化しようという壮大なもくろみが ICNP (R) (International Classification for Nursing Practice／看護実践国際分類) であり、その発展にも、1人でも多くの日本の看護者がその意義を理解し、何からの形で参加・協力することが望まれる。

開発背景

人々の健康に看護職が貢献していることが社会から理解されていない……。これは、各国に共通の憂慮であることが、1989年に開かれた国際看護師協会 (International Council of Nurses /ICN) 会員国代表者会議では浮き彫りになった。看護を科学として、また専門職として確立してゆくためには、看護実践をデータとして示し社会に説明する必要がある。しかしデータを集めようにも、看護実践そのものがまだ十分に言語化されていないという根本的な問題があった。そこで、看護実践を表すエスペラント語 (国際共通語) を開発する取り組み、ICNP (R) は始まった。

ICNP (R) コンサルタントであり初代共同委員長を務めた Norma Lang1) の有名な言葉に看護実践を言語化する意義は集約されている。“If we cannot name it, we cannot control it, finance it, teach it, research it, or put it into public policy. (名前を付けることができなければ、コントロールし、財源を確保し、教育し、研究し、公共政策に盛り込むこともできない。)”

プロジェクトからプログラムへ

ICNP (R) 開発の主な経緯を表1に示している。プロジェクト開始から10年を経た2000年、ICNP (R) は国際看護師協会が125カ国の代表機関としての責任を果たすべく長期的に取り組む課題であることが認識され、「プロジェクト」から「プログラム」へと変わった。どちらも問題解決に向けた戦略的活動であることに変わりないが、特定の成果物を得るための短期的活動が「プロジェクト」であるのに対し、組織的使命に基づく長期的活動が「プログラム」だと理解できよう。

ICNの三大活動領域の1つ「専門看護実践」(他2領域は「看護規定」「社会経済福祉」)の主要プログラムとしてICNP (R) は位置づけられている2)。欧米などでは既に独自に開発した看護用語集が使われているが、開発や維持に要する資金を捻出するために、用語集は有償で使用者に提供されるのが一般的である。ICNが世界各国の看護データを蓄積・活用するためには、厳しい経済状況の会員国にも配慮し、無償提供を基本とするICNP (R) が重要となる。

クロスマッピング促進ツール

ICNP (R) は既存の看護用語を独自の方法で分類するものであり、新たな用語開発を目的とはしていない。その点で、概念開発とネーミング(名前づけ)を行うNANDAやNIC・NOCとは異なっている。「世界中の保健医療システムにおいて看護データが容易に入手・活用できるようにすること」がICNP (R) プログラムのビジョン3) である。

各国の看護現場ではそれぞれの目的に応じたさまざまな用語集が既に開発・使用されている。そのような状況で世界的視野の膨大な看護用語を有する発展途上の ICNP (R) にあえて切り替える必要はない。現在の ICNP (R) は「ローカル用語や既存の用語集あるいは分類とのクロスマッピングを促進する看護実践の組み合わせ用語集」4)と説明されている。異なる用語集間に互換性を持たせデータ交換を可能とするツールと理解するとよさそうだ。国境や施設、臨床領域を越え、さまざまな看護用語を ICNP (R) に相互参照させつつ不足用語を追加収録してゆくことで、クロスマッピング促進ツールとしての有用性も向上すると期待できる。

ICNP (R) アルファからベータ、ベータ2バージョンへ

アルファバージョン 5)では既存の看護用語分類から集めた用語を平面的に並べたシンプルな構造であった。ICNP (R) ベータバージョン 6)では大きく様変わりし、看護現象(Nursing Phenomena)と看護行為(Nursing Actions)を表す用語を8軸の多軸分類(multi-axial classification)で整理する形となった。臨床判断つまり看護診断を表す「看護現象」用語は 1,194 語収録されており、A~H の8軸つまり「看護実践の焦点 Focus of Nursing Practice(656 語)」「判断 Judgement(343 語)」「頻度 Frequency(8語)」「持続時間 Duration(2語)」「位相 Topology(30 語)」「身体部位 Body Site(135 語)」「見込み Likelihood(12 語)」「該当者 Bearer(8語)」に分類されている。看護活動を表す「看護行為」用語は 1,281 語収録されており、こちらも同様に A~H の8軸つまり「行為のタイプ Action Type(170 語)」「行為の標的 Target(552 語)」「手段 Means(262 語)」「時間 Time(22 語)」「位相 Topology(30 語)」「位置 Location(189 語)」「経路 Route(48 語)」「ケアの受け手 Beneficiary(8語)」に分類されている。アウトカムは看護現象用語で表すため、独立した分類にはなっていない。

ICNP (R) ベータバージョンで見つかったコード間違い、誤字・脱字、定義の欠落などを修正する改訂版が ICNP (R) ベータ2バージョン 7)である。今後はベータ2バージョンを使った検討が世界各国で続き、2005 年に正規版が ICNP (R) ベータ2バージョン1として発表される予定となっている。

ICNP (R) ベータ2日本語版

ICNP (R) ベータバージョンの翻訳に際し、看護実践国際分類研究プロジェクトでは以下の3つのルールを採用した 8)。

- ・関連する他の看護用語分類を参照するが、最終的な訳語は研究メンバーで決定する。
- ・カタカナ語はできるだけ避けるが、すでに臨床で一般化している用語は定義を勘案し使用する。
- ・他の医療職やクライアントと共有できる用語を使用し、専門用語と一般的に用いられている用語が異なる場合は両者を併記する。

2002 年に冊子およびホームページで日本語版 ICNP (R) ベータバージョンを公開後、訳の妥当性を検討してきた。その結果、誤訳、あいまいな表現、訳の矛盾(異なる英語に同一訳の使用等)、誤字・脱字を修正し、全体的な表現の統一を保つように手直しするとともに、ベータ2バージョンの変更箇所を反映したものが本書である。例えば、2B.2.1.1.1.1.1.17 Stepmother「義母」は誤訳であり「継母」に、1A.2.2.4.1.4 Stigma「不名誉な印」は意味がはっきりしないため「スティグマ」に変更した。また現象 A 軸の定義の多くをオリジナルに忠実な表現となるように改変した。現象 B 軸では「あり」「あり、少し」「あり、かなり」「あり、非常に」「なし」の程度の5段階が明瞭になるように軸全体で表現を統一した。

ICNP (R) 活用上の留意点

ICNP (R) は標準化された看護用語集の1つではあるものの、他の用語集のように看護診断や看護活動の枠組みや根拠にはなり得ない。看護実践は科学的問題解決方法の看護過程で展開される。看護過程それぞれの段階に関する知識が ICNP (R) 活用の前提として必要である。

試用版 ICNP (R) 開発に当たって日本から用語集を提出していないこともあり、日本の看護実践用語が不足している 9)。したがって、電子カルテシステムの導入時に今の ICNP (R) を採用しても、必要な看護情報が十分に整理できないことが予想される。

「ローカルの用語や既存の用語集あるいは分類とのクロスマッピングを促進する看護実践の組み合わせ用語集」というICNP (R) の役割をまず認識する必要がある。病院・施設で用語集を持つ場合はクロスマッピング作業によって、用語集がない場合でも日々の看護実践用語との比較によって、ICNP (R) に足りない用語が指摘できよう。ICNP (R) が目指すように国内外で看護データを蓄積・活用するためには、日本の看護実践用語をICNP (R) にもっと追加提案してゆく必要がある。次頁で紹介するICNP (R) Japan オープンサイトにアクセスしてICNP (R) プログラムに是非ご参加いただきたい。

●参考・引用文献

- 1) Clark, J., & Lang, N. : Nursing's next advance : An international classification for nursing practice, *International Nursing Review*, 39(4), 109-111, 128, 1992.
- 2) <http://www.nurse.or.jp/kokusai/icn/abouticn.html>
- 3) Coenen, A. : Nursing Classifications "The International Classification for Nursing Practice (ICNP) Programme: Advancing a Unifying Framework for Nursing" *Online Journal of Issues in Nursing*. http://nursingworld.org/ojin/tpc7/tpc7_8.htm3
- 4) <http://www.icn.ch/icnp.htm#what>
- 5) International Council of Nurses : The International Classification for Nursing Practice (ICNP), A Unifying Framework, The Alpha Version, 1996.
- 6) International Council of Nurses: International Classification for Nursing Practice-Beta Version, 1999.
- 7) International Council of Nurses: International Classification for Nursing Practice-Beta 2 Version, 2001.
- 8) 岡谷恵子他:厚生科学研究費補助金医療技術評価事業「わが国における看護実践国際分類(ICNP)の妥当性と普及に関する研究」平成12年度総括・分担研究報告書, 2001.
- 9) 上鶴重美他:厚生労働科学研究費補助金21世紀型医療医療開拓推進研究事業「わが国における看護実践国際分類の妥当性と普及に関する研究」総括・分担研究報告書, 2002.